



### ◇委員の紹介◇

**日本証券アナリスト協会 企業会計部長  
熊谷 五郎**

企業会計基準委員会（ASBJ）非常勤委員の二期目を務めさせていただくことになりました。日本証券アナリスト協会の熊谷です。財務諸表利用者を代表する立場で、専門委員会を含め ASBJ の国内基準設定や国際的意見発信活動に携わるようになって、早いもので 10 年以上の年月が経ちました。現在 ASBJ は、日本基準の国際的整合性を高めるために、金融商品(IFRS 第 9 号「金融商品」に対応)、リース (IFRS 第 16 号「リース」に対応) に関する国内基準の開発を進めています。これらの 2 つの会計基準の開発は、収益認識 (IFRS 第 15 号「顧客との契約から生じる収益」に対応)、IFRS 第 17 号「保険契約」と合わせて国際会計基準審議会 (IASB) の 4 大プロジェクトといわれていました。図らずも、そのように国際的にみても大きな基準の国内基準化プロジェクトに携われるのは、非常に責任が大きいと同時にやりがいもあることと感じております。

現在 IASB では、IFRS 第 3 号「企業結合」で「のれん」の会計処理を見直していますが、償却の再導入も最有力ではないものの、選択肢の一つとして検討されています。また米国財務会計基準審議会 (FASB) においては、のれんの償却を再導入する方向で議論が進んでいます。のれんの償却の再導入については、「その他の包括利益のリサイクリング」と並んでわが国が国際的に強く主張してきたところでもあります。予断は許しませんが、このように IASB や FASB で真剣な議論が進んでいるのは、ASBJ の地道な意見発信の成果だと思えます。自分もまた ASBJ の一員として、財務諸表利用者の立場で、日本からの国際的意見発信の一翼を担っていきたいと思えます。

また、IFRS 財団傘下に国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) が設置されたことに対応して、財務会計基準機構 (FASB) 内にもサステナビリティ基準委員会 (SSBJ) が設置されることになりました。今後会計基準に基づく財務報告と、サステナビリティ報告等の非財務報告とのコネクティビティが重要課題になるのは間違いありません。二期目では、こうした点についても、強い問題意識をもって意見発信していきたいと思えます。